

節目の年に先輩としての不安

経営情報学部3年 牛込 将晟

ちょうどこの文章を書いているときに1月18日、2025年度大学入学共通テストが行われており、受験生が高校3年間の努力を力とし受験に打ち込んでいるわけである。今年度・来年度は大学にとっては「節目」となる年である。

今から2年と9か月前、2022年4月に高校では「総合的な(探究)学習の時間」という授業が取り入れられるようになった。この多摩大ジャーナルは3月29日頃に届き、その1週間以内には入学式が執り行われるだろう。「探究の授業」を3年間し続けた高校生が多摩大学に入学してくる、そんな節目に今我々はいるのである。

私は、この「3年間探究をしてきた学生が入学してくるという事実」に不安を抱いている。今回はその不安について書かせていただきたいと思う。

1年ほど前の話になってしまうが、多摩大学附属聖ヶ丘高校の探究の授業をサポートさせていただいたことがあった。聖ヶ丘高校での探究では、いくつか「ゼミ」があり、私は「条例策定ゼミ」を1年間、大学生という立場でサポートしていた。(探究の授業は高校ごとに特色があり、聖ヶ丘高校では地域に根差した探究を行っている)

彼らは自分たちで大人と交渉したり、失敗して挫折したりしながらもひたすら前向きに探究という授業に向き合っていたのである。そんな彼らを1年間サポートしていて、私は「多摩大学のゼミ活動と同じレベルの活動が行われている」と感じた。3年間探究に真剣に取り組んできた生徒が今後入学してくるという事実には私は「危機感」を感じた。

私達は「学びこんできた新1年生からみて頼れる先輩」であるのだろうか、私達は「彼らの3年間燃やし続けた情熱を絶やさないことができるのか」というような「危機感」を抱いているのである。

なぜこのような「危機感」を持つかという、私が1年生の時、ようやく始まった大学生活には様々な不安があった、それは「講義について」だったり「2年から始まるゼミについて」であった。だからこそ、最初に頼ったのは教員ではなく先輩であった、ブレゼミの担当教員に聞いても良かったと思う。しかしここで先輩を頼ったのは、距離感が一番近かったこともあるし、何より自分も来年から誰かの先輩になるということも理由であった。

恐らく、これはほとんどの学生が経験する不安であると思う。そんな不安を、数日後に入学してくる新入生も経験するということは想像するに容易いことである。

だからこそ、私たちは今よりほんの少し気を引き締めて、頼ってくるであろう新入生の情熱を絶やさないようにしなくてはならない。そして、その情熱から私たちも情熱をもらい、更に新しいことに挑戦できたらいいと思う。

この節目の年、新たなステップアップができる充実した1年にできたら良いと思う。



ジェロントロジー企画での田植えの様子



多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校の探求ゼミをお手伝い



都立秋留台高校 校内寺子屋(学習サポート)への協力

4年間楽しかったあ！！

グローバルスタディーズ学部4年 佐藤 彩里

「最高に楽しかった4年間」今回執筆するにあたり、学生生活を振り返りました。成長もした、将来も見えた、学びも得た、苦しい経験もした、など沢山の題材が浮かんできました。全て込みで楽しかったとまとめ、この作成にあたるうと考えました。私が特に楽しいと感じたAEP（アカデミック・イングリッシュ・プログラム）、ボランティア活動、ゼミ活動について書いていきます。

まずは、1番最初に受けた必修科目のAEPです。この授業は、同じレベルの英語力の学生たちで1年間週4回行われる授業でした。ここでは、特にメンバーに感謝しています。英語の発表が多くあり、英語力のない私からすると辛く、大変だと感じる授業内容でした。ドキドキで挑んだ初めての英語での発表をした時、カタコトの英語を話し席に着きました。劳いの言葉と褒める言葉を貰いました。そんなことと思うかもしれませんが、人の緊張や不安を感じ取って適した言葉をかけることができる人たちで素敵だなと感じました。このメンバーでの授業はとても楽しく、今現在も仲良くしているメンバーも多くおり、大学1年で素敵な同級生に出会えて、よかったです。

次は私が大学生になってはじめたボランティア活動です。主に、地域密着型・大学を出た活動・他大学と合同活動をしてきました。ボランティア活動では自分自身の成長を感じることができました。大学1年時には、地域に密着した活動に参加しました。地域を活性化させたいという想いや活動に対する情熱を感じました。2年時からは大学内の活動ではなく、地元の子供食堂などに参加しました。大学が間に入らない活動は自分で情報を得て繋がりを持たなくては行けなく、繋がりをどう保つかを学びました。大学3年時には他大学と行う活動に参加し、興味関心が同じ同年代の人から次のボランティアの誘いや、ボランティア情報などを話すことができました。もっと、私自身頑張っていきたいと思える経験でした。4年時には、ボランティアの運営メンバーに誘っていただきました。初めての経験で大変なことも多くありましたが、無事にボランティアが終了し、楽しかったなどの声を貰った時は本当に嬉しかったです。これまでの繋がりが形になり、やり遂げることができたことに成長を感じました。

最後は、私の中で最も濃い経験になっているゼミ活動です。ゼミに所属し、私の平和、誰もが納得できる平和は実現可能なのかについて残りの2年間、深く考えたくて入りました。結果として、深く考えることができ、これからもこのテーマについて考えていきたいと感じました。特に濃かったのは、ゼミ長になってからの時間です。この時間があったからこそ私は、ゼミの同級生を大切にしているし、尊敬しています。私が困っていると迷わず声をかけてくれる所、自分の事として一緒に考えてくれること、独りにしないところなど沢山いいところが出てきます。この同級生に出会えたことは私がゼミに入って1番得たことだと感じています。そして、ゼミの担当教員である桐谷先生と出会ったことで、学生が主体になり意思を持って行うのがゼミ活動であり、本気で取り組むという事だと教わりました。このゼミで2年間濃厚な時間を過ごすことができて幸せでした。

私の経験を載せさせていただきました。楽しそうな4年間に感じていただけたでしょうか。私は、楽しいということはプラスなことだけではないと感じました。様々な体験を通してもらった感情や考えが楽しいに繋がると実感した4年間でした。社会に出たら、この4年間をベースにもっと楽しいと思える体験・経験をしていきたいと考えています。

最後に、関わってくれた全員ありがとう、ピックラブ、これからもよろしくね。



AEPの仲間たち



東洋大学との合同ボランティア活動



ゼミ活動最終日の集合写真